

平成30年NO.25 耐震設計

1. う向別に異なる耐震計算ルート → 滥用にはなり。階ごとに異なる耐震計算ルートの適用は不可
2. せん断補強筋の基準強度割増し → せん断補強筋に対する基準強度の割増しは行わない
3. 保有水平耐力 → 建物が崩壊する時の各部材が負担している水平せん断力の和
4. 保有水平耐力計算における偏心率による割増し → 偏心率が所定の数値を上回る階のため必要保有水平耐力を割増す

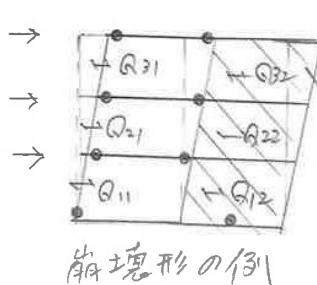
① う向別に異なる耐震計算ルート → 滥用にはならない

例) S造: 行方向スパン=6m → ルート1, 張間方向スパン=10m → ルート2 or 3

Rc造: 行方向ラーメン構造 → ルート3, 張間方向車庫耐力壁 → ルート1

一方、階ごとに異なる耐震計算ルートを適用にはいけない

② 保有水平耐力 → 建物が崩壊する時の各部材が負担する水平せん断力の和



• 型枠ユニット

(13)

$$3F \text{ 保有水平耐力} = Q_{31} + Q_{32}$$

$$2F \text{ 保有水平耐力} = Q_{21} + Q_{22}$$

$$1F \text{ 保有水平耐力} = Q_{11} + Q_{12}$$

③ せん断補強筋の基準強度割増し → せん断補強筋

JIS 規格品は基準強度の1.1倍可能 割増し11%

主筋(割増) → 曲げ耐力up → 設計用せん断力up ($\frac{M}{h}$)

↑ 安全上問題ある

せん断補強筋(割増) → せん断耐力up → せん断補強筋減

↑

④ 保有水平耐力計算における偏心率による割増し 安全上問題あり

↓目的

柱・耐力壁の耐震要素の平面的偏りが頭著な階に
地震エネルギーの集中となる → 偏りの頭著な階の耐力を高める

